

T.M.P. NEWS

VOL.56 2020.10

T.M.P.

高く澄みきった空に、心も晴れ晴れとするこの頃、皆様におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。また平素より格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

これを書いている翌日よりアメリカ大統領選の投票が開始されます。早晩、世界の権力者が決まるわけですが、トランプ、バイデン両候補者のテレビ討論会を見ると、同時通訳者の方々が、訳すのにも窮するようなやり取りが展開され、アメリカの有権者も選択に困っているだろうと推察されました。個人的には日米関係が良好であった事や尖閣諸島に迫ってくる中国に対して強硬な姿勢をとっているトランプの方が、どの様な政策を行うのか見えないバイデンよりはましではないかと考えます。

私の通っている英会話学校の先生3人に、どちらの候補を支持するか、選挙の件で質問してみたところ、シアトル出身の20代白人女性はバイデン（本当は大学授業料無償化を唱えるサンダース支持だそうです）、ミズーリ州出身の中年白人男性はトランプ（小声で答えたのが気になりましたが）、ジョージア州出身の20代黒人男性はバイデンという結果でした。

アメリカを11の地域に分けて、その人種、政治、文化といった特色を説明している本も出版されていますが、海岸沿いは民主党、内陸は共和党、黒人は民主党といった教科書通りの回答が返ってきました。いずれにしても、近年アメリカの富の偏在が著しく、アメリカ人全体の幸せの総和が年々減ってきているのではないかと感じております。政治は人々の幸せを増やすためにあるとするならば、両候補にはそれに叶う政策を期待したいと思えます。

皆様におかれましては、時節柄、くれぐれもご自愛頂きますよう、心からお祈り申し上げます。

株式会社 東海メディカルプロダクツ

代表取締役社長 筒井康弘



第30回日本臨床工学会



9月29日、名古屋国際会議場で第30回日本臨床工学会（神戸幸司学会長：小牧市民病院 臨床工学科）が開催され、学会長特別企画で筒井会長が「先端医療機器の開発に挑戦し続ける～日本三大疾病に挑む～」と題して講演を行いました。

当初は、筒井会長が幹事長を務めている名古屋商工会議所メディカルデバイス産業振興協議会が主催するメディカルメッセとの共催の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でメディカルメッセが中止となり、日本臨床工学会の単独開催となりました。

講演では会社設立や国産初IABPバルーンカテーテルの開発経緯が中心でしたが、その開発当時、東京大学や東京女子医科大学などの多くの先生方と共に臨床工学技士の学会設立に向けて、当時どこの企業も寄付など協力しない中で、東海メディカルプロダクツとして大いに協力させていただいたことを初めて披露しました。

現地・Web併用開催という新しい方式で、通常の学会に比べて来場者は少ない状況ではありましたが、コロナ禍での学会参加の制限や愛知県への移動制限がある中、現地参加及びWeb参加者等の有料参加者数2,555名、招待・企業・市民公開講座参加者を合わせると3100名を超える参加者だったとのこと。ただ、学会内の企業展示エリアは現地来場者が少なさが直接影響しており、withコロナにおける新しい学会のあり方にはまだまだ課題があると感じました。

第49回日本IVR学会

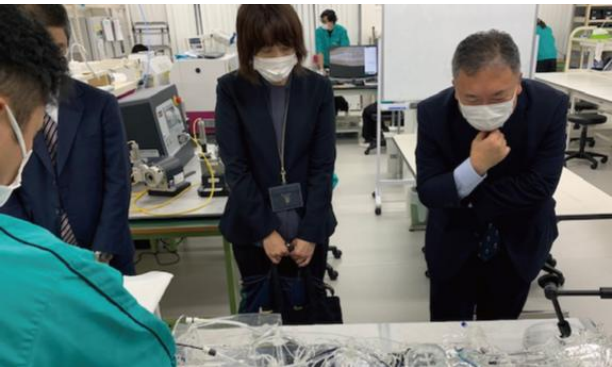


新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響で延期となっておりました第49回日本IVR学会総会（大会長 村上卓道先生 神戸大学大学院医学研究科 放射線診断学分野 教授）がWEB視聴を併用したハイブリット形式で実施されました（開催8月25日～27日：神戸）。

コロナ禍の中、会場に来られる先生方は通常より少ない状況でしたが、当社で開催しましたランチセミナーでは、マイクロバルーン「Pinnacle Blue®」の話題を中心とした『バルーンカテーテルを使いこなそう～基本と応用』と題して、佐口徹先生（東京医科大学 放射線医学分野）からは動脈系疾患の治療におけるマイクロバルーンの使用についての基礎から応用的な使い方の工夫に関して御講演いただきました。城後篤志先生（大阪市立大学大学院 放射線科）からは数々の静脈系疾患の治療経験から、治療戦略のアイデアや治療のコツを御講演いただきました。ソーシャルディスタンスを求められる中でしたが、セミナー会場は満席となり、WEB視聴の先生方からも多くの反響をいただく事ができました。

移動制限が続く中、ハイブリット形式という新しい開催形態ではありましたが、お役に立てる情報提供・発信の場として有意義な会となったと思います。今後もコロナに負けることなく、WEB配信など新しい形態も取り入れて、情報発信に努めてまいりたいと考えております。（岡崎 記）

会社見学にお越しになりました



2020年10月9日

一ノ瀬宏昭様

(中部経済産業局地域経済部 部長)

大橋康史様

(同 ヘルスケア産業室 室長)

後藤裕美子様

(同 ヘルスケア産業室 室長補佐)

中部医療機器工業協会 永年勤続優良従業員表彰式

毎年5月に中部医療機器工業協会の総会において永年勤続優良従業員表彰式が執り行われますが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止(書面決議)となりました。代わりに社内で表彰式を開催し、中部医療機器工業協会 名誉会長の筒井会長より伝達されました。



今回の表彰を励みとし、中部地区の医療機器製造業の更なる発展に向け、職務に邁進していただければと思います。

- ・愛知県知事表彰(勤続20年) 本社製造課 山田慎也さん
本社製造課 川合由美子さん
- ・協会会長表彰 (勤続15年) 製造グループ 加藤千英さん



コラム

3月から4月にかけて新型コロナウイルスの第一波がやってきました。

5月から6月頃にかけて一旦落ち着いてやれやれと思っていたら、7月に入ってまた徐々に増え始めて、東京で8月7日に1,605人、愛知も7月31日に193人を記録し、恐れていた第二波がやってきました。

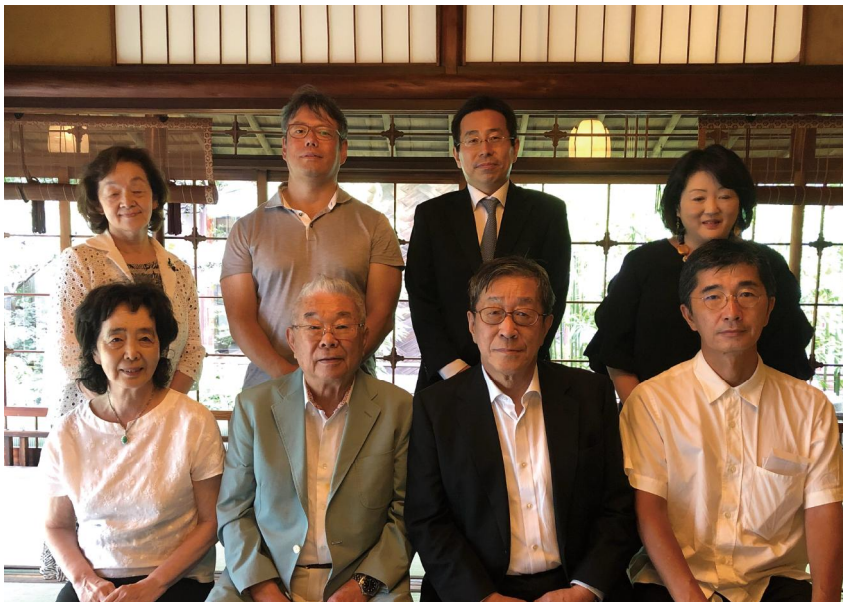
全国的に県境を越えた移動を禁じされたり、東京に行くことができなかつたりしましたし、私も国の委員会や公的機関の総会・理事会が中止や延期となりました。当社としても、社内の会議はオンラインに切り替え、営業も病院に直接伺うことが出来ず大変不便な状況となりました。

しかしながら、この不便さというのは昨年末の好況を味わったゆえに不便と感じるのではないかと私は思います。昨年に比べて今年が7-8割だったとしても、好況な部分を差し引けば、さほど変わらず、WITHコロナはこれが普通で、少し不便ぐらいが丁度よいのかもしれない。そして、2019年末の好況な経済に戻るのには5-6年もしくは10年先ではないかとも考えています。

「もったいない」という考えが失われ、何もかもが使い捨てで、効率のために多くのものが廃棄処分される贅沢な生活は一度考え直さねばならないのではないのでしょうか。その他にも「わがままで身勝手」「自転車・自動車の交通ルールを守らない」「あいさつや人をねぎらうことをしない」など「自分さえ良ければ他はどうでもいい」という行為は慎まねばならないと思います。また、今のままの自由主義が進んでしまうと、貧富の差が広がって格差社会になっていく懸念があります。富が過度に集中せず広く分配され、貧しさを感じる人が少なくなるのが理想的だと思います。

この新型コロナウイルスは様々なことを見つめ直す良い機会ですし、そういう事柄を少人数で集まって話し合いができ、実行に移していく会合などをいつか作りたいと想像たくましく思っています。

筒井宣政



家族近影(一緒に写っているのは名古屋本部の耐震改装を担当している数寄屋大工棟梁・設計士)



株式会社
東海メディカルプロダクツ

T.M.P.NEWS VOL.56 2020年10月発行 編集発行人:筒井 康弘

〒486-0808 愛知県春日井市田楽町字更屋敷1485番地

【TEL】0568-81-7954 【FAX】81-7785

【E-mail】info@tokaimedpro.co.jp 【HP】http://www.tokaimedpro.co.jp